

令和4年度第4回大網白里市地域公共交通活性化協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月14日(火) 午前10時から
- 2 場 所 大網白里市保健文化センター1階集団指導室
- 3 出席者 別紙委員名簿のとおり
- 4 配付資料
 - ・委員名簿
 - ・席次
 - ・白里地区コミュニティバスチラシ
 - ・参考 白里地区コミュニティバス停留所別乗降者数
 - ・資料1 白里地区コミュニティバス「はまバス」について

1 開会

(事務局：加藤岡)

大変長らくお待たせしました。ただいまより、会議を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、本日の司会進行を務めさせていただきます、事務局の加藤岡と申します。本日でございますが、委員18人中、13人出席、代理出席者2名の出席をいただいていることをご報告申し上げます。

また、皆様ご承知のとおりだと思いますが、マスクの着用につきましては、昨日の13日より、個人の判断に委ねる方針とされたところでございます。このため、当協議会におきましても、マスクの着用につきましては、政府の方針を踏まえ、個人の主体的な選択を尊重し、本日の会議から、個人の判断とさせていただくことをご報告申し上げます。

それでは開会に先立ちましてお手元の配付資料の確認をさせていただきます。

～当日配付及び郵送した資料について確認～

配付いたしました資料は以上となりますが、お手元の配付資料に不足がありましたら、お知らせの方、よろしく願いいたします。

なお、携帯電話につきましては、大変申し訳ございませんが、マナーモードにするか、電源をお切りいただきますようご協力の方よろしく願いいたします。

また、本日は、大網白里市地域公共交通活性化協議会傍聴規則に基づき、市ホームページにて傍聴のご案内をいたしましたが、傍聴者はおりませんでしたのでご報告させていただきます。

続きまして、令和5年2月1日付で委員の変更がございましたので、ご紹介させていただきます。

お名前を呼ばれました方は恐れ入りますがご起立いただきますようお願いいたします。

小湊鉄道株式会社執行役員バス部長深山宏樹様でございます。

委員の紹介は以上でございます。

それでは、これより令和4年度第4回大網白里市地域公共交通活性化協議会を開会いたします。

次第に沿いまして進めさせていただきます。

2 会長挨拶

(事務局：加藤岡)

はじめに会長挨拶でございますが、本会の会長であります、日本大学理工学部轟教授におかれましては、本日、所用のため会議を欠席されておりますので、副会長でございます、大網白里市副市長の堀江よりご挨拶申し上げます。

(堀江副会長)

皆さんおはようございます。お忙しいところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。今、司会からもお話がありましたとおり、本日は轟会長が所用のため欠席ということですので、議長の方も、私の方が進行させていただくこととなりますので、議事進行についてはご協力をお願いしたいと思います。

さて、コロナ禍の方も3月に入りまして大分沈静化してきたということが新聞等で報道されております。コロナ禍前に戻るというのは全くこれは無理だと思いますが、Withコロナの中でも、各経済社会活動は、前に向かって戻りつつあります。

この公共交通につきましても、客足がまた戻りつつあるのかなというところがございます。

本日の議題は、本市で行っております白里地区コミュニティバス「はまバス」の運行の可否についての議題でございますので、本日は皆さんのご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局：加藤岡)

ありがとうございました。それではこれより議題に入らせていただきます。

協議会規約第5条第3項の規定に基づき、議長を堀江副会長にお願いいたします。

3 議題

(堀江議長)

今日議題は先ほど申し上げましたとおり、白里地区コミュニティバス「はまバス」についてでございます。

内容につきまして事務局からの説明をお願いします。

(事務局：弘中)

～事務局より議題1について説明～

(堀江議長)

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありました内容を簡単に補足いたしますと、本格運行時に設定した目標値には至ってはいない。その理由は先ほどの資料5ページに達成できなかった要因、3点ほど挙げられてます。しかしながら、1便平均の利用者数については増えてきてる。そして、国庫補助の要件である1便当たり、2人以上という条件は満たしてるということで、白里地区については、高齢者人口が、今後も増えるだろうと。これらのことから、地域の日常生活における身近な移動手段として、運行継続したいという事務局の説明でございます。委員の皆様への今の説明についての質疑など、お願いしたいと思います。

どうぞご意見のある方は挙手の上、お願いいたします。

(小野委員)

公募委員の小野と言います。よろしく申し上げます。今説明のありました内容で一つお聞きしたいのは、本来このバスというのが運営されてもう10年になるんですかね。いろいろルートを変えるとか、いろいろやられてきたと思いますけれども、基本的に1便当たり2人という数字というのは変わってないんですよ。

例えば、2人だったものがどんどん増えていって、さらに4人になってるわけでもない。ただ、今までと同じようなことをずっと続けてた訳ではなくて、いろいろ事務局の方でも手を尽くしたけれども、現在においても1便当たり2人という数字は基本的に変わってない。去年の11月に回数券というサービスを入れたということなんですけれども。郵送で配られた運行実績表を見ても、令和3年度の実績と、令和4年度の実績、令和4年度の10、11、12月、令和5年の1月2月ですか、3月まで出てますけれども、基本的に、変わってないということを考えますと、基本的にその2人という数字を、例えば3人4人に持っていくという、基本的に変ってしまうような何か新しいアイデアを事務局の方はお持ちなんでしょうか。もしくはこれを今までやってこなかったんだけど、これをすればもっと上がるというような何か、確たるものじゃなくてもいいですけども、何かアイデアがあるとすればそれをお聞かせ願いたいんですが。

(事務局：弘中)

ただいまのご質問なんですけれども。このはまバスが運行して本格運行移行した段階では、まだコロナ禍ということで、事務局の方でいろいろなイベントですとか、そういったところに参加できないというところがありました。運行開始当初は、例えば敬老会や老人クラブのイベントに参加したりですとかそういったことを行いながら、利用啓発を図っていましたが、ここ最近はホームページや、市の広報といったものが主なものになってきておりますので、このコロナ禍が収束してきた際には、各自治会や、もっと小さい単位のサロンというのがございますけれども、そういったところで利用の啓発を行いながら、または、利用者の声を密に聞きながら、利用者ニーズに即したバス停の設置やルートの方を検討していきたいと考えております。

(小野委員)

ただ問題は、例えばこれまでの利用者が、ほとんど2人で低迷してますが、そういうようなことを見て取り組まれるとは思いますが現実的にどうなんでしょうかという質問です。ただそれは確かに少しは増えるかもしれない。0.1人とか、それはある程度は推定されるんですけども、いろいろ今までやられてきた。当然前からこのバスで運営されてるわけだけども。そのときの数字から見ても1便当たり2人という数字は基本的には動いてない。こういうふうには私は判断せざるを得ないんです。従ってバスという現在の方式そのものが、一旦変えなければいけない。そうしなければ基本的に大きな変化は見込まれないんじゃないかと私は思ってますけれども、その点どうなんでしょう。確かにいろいろやられて、事務局の方も苦労されてる事はよく分かるんですけども。基本的に、例えば大きな癌になってる、もしくはこの地域にですね、いっぱいその利用者が潜在的にあるんだということがほぼ全て出来ていて、何かしましょうというのであれば今の話もありますが、何か具体

的な原因、増えない原因、もしくは、潜在的にこういう需要があるということですね。ある程度把握できてれば、まだバスというのをやっても私としては意味があると思うんですよ。ただその点はどうしても釈然としないですけどね。

(事務局：弘中)

2月に利用者アンケートを実施した際に、すべての便に職員が乗車しまして、乗務員の方も含めてお話を伺いました。その中で特に多かった要望といたしまして、先ほども説明の中で申し上げましたが、細草地区というところの利用者が非常に多いんですけれども。まだその地区でももう少しバスのルートに近ければ乗れるとか、もう少しルートを変えてもらえれば、利用者が増えるというようなご意見を今の現利用者の方や乗務員の方からいただいているのは事実としてあります。その点も含めまして、次期運行計画期間の中でそういったものも反映した運行ダイヤに、変えていった上で、利用者数の増加を図っていきたいと考えております。

(小野委員)

あと、現行計画というのは、案としては令和5年10月から、今のはまバスの延長ということでやっていきたいということなんですけれども、これを基本的に変えるとすれば、それはいつがリミットなんですか。

(事務局：弘中)

運行計画を2年半としておりますので、9ページでご説明いたしました(2)の運行計画の目標値についての③令和6年10月から令和7年9月までの目標値がこの3.0人。この令和7年9月というのが、次期運行委託期間満了日の半年前となりますので、この段階ではまバスに代わるような、代替の輸送手段が明確になっているとすれば、その時点で判断することになるかと思えます。

(小野委員)

わかりました。

あと今回やられた利用者アンケートの中でいろいろよくわかったんですけども、基本的には今はまバスの利用者を増やすとするのであれば、現在利用してる方はもう利用されてる訳です。そこで一番必要なアンケートというのは、利用されていない方、現在利用したくてもなかなか利用できないという条件下で、控えてる方に対するアンケートというのが、利用者を増やすには有効だと思いますが、そういう方々へのアンケートというのは何か考えてらっしゃるんでしょうか。

(事務局：弘中)

次年度の令和5年度中に、市内全体の方を対象といたしました市民アンケートの実施を予定しておりますので、その中で、今回のバスの事もそうですが、何か別の代替手段についてのご質問等も踏まえたアンケートを行っていただければと考えております。

(小野委員)

今はこのアンケート等を見ても、いわゆる現在のバスを利用することが前提。要

するにバスという方式を利用することが前提でのアンケートになっているので、どちらにしてもそれに限定された回答しか戻ってこないわけです。それをやっぱり打破するためにも、早いうちに、バス以外の方式を具体的に示して、利用システムはどういうのがいいのかというのを検討していただきたいと思います。

(堀江議長)

他の方がいかがですか。

今の意見に対してでもいいですし、基本的に事務局の説明に対しての、ご意見、ご質問があれば、委員の方からお伺いしたいと思います。

(永田委員)

永田です。今回この詳細なアンケートを見て、この停留所別の乗降客まで含めて、よくお調べになったなと思って感心しております。

せっかくここまでアンケート調査をされたんで、やはりこれを次回のダイヤ等に反映されたいのかなと思います。平均2人でずっと推移してますけれど、これをどうやって上げるか。逆に言うと、さっき常連の人がいなくなってしまったとか、利用しなくなったということで、数字が下がっちゃうということなので、絶対数自体が非常に脆弱なので、やはり1人2人をどうやって増やすかというのが、重要なポイントかと思います。私はこのアンケートの中で、やはり、いいなと思ってるのは、利用したいがダイヤに不満が53%ですか。やはり、この利用したいっていう気持ちがあるというのは、僕は有効かなと思っております。2便は、当初白里地区のスーパーの買い物を想定したけど、それがなくなったという計算になったということで利用減になってると聞いていますが、逆に利用者の声でカスミとか大網白里アリーナとか、ベイシアとかありますので、この利用者の目的の一つに、通院の他にも、買い物というのは非常に大きいので、この辺はバス停の見直し、要するに、カスミとかアリーナとかベイシアも、考慮に入れたほうがいいのかと思います。ただちょっと心配なのは、いわゆる競合する小湊バスの関連です。その辺の棲み分けはどのようなのかというのは、ちょっと気にはなるところです。なので、やはりもうちょっと買い物がしやすいお店、時間帯を、次のダイヤの時にはぜひ、検討された方が私はいいと思います。

それと続けているいろいろ言いますけれども、小湊バスとの乗り換えが乗り継ぎしづらいというふうに、書いてあるのがちょっと気になります。この方は、コミュニティバスに乗り換えてどちらまで行かれるんですかね。駅だったらそのまま行けますよね。

(事務局：弘中)

その乗り継いでいる方につきましては、下ヶ傍示というバス停で乗り継ぎを行った後に、増穂地区にある内科に行きまして、その後、カスミで買い物をして、帰りは時間が合えばはまバスで、合わなければ路線バスで帰ってくるというような動きをされております。

(永田委員)

それともう1点お聞きしたいのは、アンケートの利用目的で、公共施設が2.4%っていうのは、市役所だけじゃないんでしょうけどあまり利用してないということなんですか。

(事務局：弘中)

6ページの(2)利用目的のところ、公共施設が2.4%になってますが、利用者アンケートの結果といたしまして2.4%になっているんですけども、実際に利用者の方とお話をしている中では、市役所等も利用はしているという話は伺っています。ですが、筆記式のアンケートの結果として、こういう結果となってしまっております。

(永田委員)

やはり、ここでもあるとおり、通院と買い物が圧倒的に多いので、やはり、買い物、特に免許返納者とかですね。そういう人は例えば重たいものを持って歩くのが大変でしょうから。次は買い物をターゲットにした方が、私は、近道なのかなと思いました。

あと先ほど小野さんが言われたけど、やっぱり利用してない人の声もどうなのかなってというのは、気になりますので、いわゆる白里地区の区長の方とか、自治会の方とかですね、その辺の要望とか意見とか出てるのでしょいか。

(事務局：加藤岡)

はまバスを運行をする際に、地元の区長様とか、そういったところから要望がありまして、運行を開始した経緯がございます。その後、運行計画はどうしようという協議は進めてきておりますが、この1年間の間にそういった要望は、承っておりません。

(永田委員)

最後にいろいろ長くなってすいませんが、例えば最初に、この北今泉の方から乗る人だと、例えば市役所、駅行くのにも、40分ぐらい大回りするので時間がかかりますよね。細草地区に住んでいる方は、もうそこからすぐ直行して大網病院とか、大網駅に行けるんで、便利かなと思いますけど。いわゆるスタートの白里小学校とかその辺から乗る人は、ぐるっと回るんで、やむを得ないんだとは思いますが、高齢者の方がやはりあのバスに、40分50分乗るといのは、苦ではないんでしょうか。

(事務局：加藤岡)

参考の資料を配付させていただきましたが、乗車降車のところに白里公民館から出る中野原のバス停があるんですが、そこからこれまでに100名の乗車があって、113名降車されてるという状況もございます。50分が長いかどうかというところの問題は実際乗降アンケートでおきまして、そういった申し出はございませんでした。しかしながら、今度新しく、例えばルートを変えようとか、追加していくとかそういった形になってきますと、やはりその区間の時間がかかってきます。私達は公共交通空白地域を解消することを目的に運行してます。利便性が向上するが、これ以上ルートが長くなるっていうことは、ちょっと避けたいなと思っております。

(堀江議長)

ご意見ありがとうございます。今まで出た意見につきましては、今の利用実績を踏まえると、コミバス方式でない方式も検討してはどうなのか。また、現行、増えてきている要素はあるけども、新たに増やすような何か解決策、そういったものも検討すべきじゃないか。というような意見が出ております。

(中村委員)

千葉中央バスの中村と申します。先ほどのご説明の中で、問4というアンケートの中で、増穂のカスミさんに停まって欲しいという要望があり、先ほどのご説明ですと、カスミはある意味で、確かにそれが目的というよりも、診療所か何かに行かれて、近くにあるのでカスミで買い物とか、そういうようなお話もあったんですが、どうなんでしょうか。診療所のバス停が欲しいとか、そういうのもこの中の裏に隠れてるんじゃないかなとちょっと思いました。

あと、乗車人員をちょっと増やす、私どもバス会社なので、例えばの話なんですけれど。当社も地区は違うんですが、デマンド型の乗合タクシーをやっています。実際やってみますと、乗り合いタクシーに関しては、メリットとデメリットの両方を兼ね備えてまして。当然、ある目的地まで行きやすいとか、一番のメリットは自宅まで来てもらえるとか。そういう部分もあるんですけれども。それにある程度応えていくとなると、このダイヤの部分もそうなんですけれども、車両数が大変多く必要になったりとか、こういう部分である程度満足していただくには、経費の部分が非常に変わってくるということ。それと、それをバスの方でどれだけこれに近い状態にしていくかっていうと、先ほどちょっとお話が出てた中で、もうちょっとバス停が近ければということですね。ここの部分で、小湊さんでもやられてるところもありますけれども。フリー乗降の区間を設けると。ルート上で、手を挙げた方がいらっしゃれば、お乗りいただくとか、こういう部分の解決策ってのはないわけではないです。

またそのアンケートの中で、増便とか、時間が合わないとかってあるんですけれども。必要最低限の車両等や乗務員を使った中でやっているとなると、これを完全に払拭することは困難です。時間が合わないっていうのは、ある意味、限られた車両でということ。これと、それを払拭するには、多くの車両を使っていかなきゃいけないっていうところがありますので、当然、運行経費もかかってくるというところがありますから、その中で、どれが、一番トータル的に公平に満足いただけるかっていうところを考えていかないと、難しい問題かなと思います。特に乗り合いタクシーに移行したということと言えますと、予約制でお迎えに行くという形になりますから、いちいち電話をしなきゃいけない。今はAIが進んでますから、乗り合いのそのシステムを使うとなると、じゃあネットで申し込みしなきゃいけないということで、ご高齢の方にとっては、例えばスマートフォン、これでの予約が困難であったりだとか、ご家族がやっていただければいいのかなと思ってますね。やはり人の気持ちは変わりますから、そこは都合悪かった場合とか、そういう場合の変更とかっていうのがなかなか対応できないっていうところもあるんで。これらの問題等もトータル的に考えていかないと。その上で、どの交通手段がいいのか。どの時間帯の方がいいのかっていうのを、今後検討していった方がいいのかなと思います。以上です。

(堀江議長)

ありがとうございます。

ただいま中村委員の方からは、実際に行ってるデマンドの運行についてのメリットデメリットについてご紹介といたしますか、実態を報告いただきましてありがとうございます。

他の委員の皆さんいかがでしょうかね。質疑ということで説明資料に対しての質疑等についてはまたご意見については、よろしいですか。

では本日の議題です。8、9ページに示されてますように、本市の白里地区コミュニティ

バス「はまバス」についての運行を継続、についての決をとりたいと思いますが、事務局の案に賛成の方の挙手をお願いしたいと思います。

～総員賛成～

ありがとうございます。

では委員の皆様の屈託ない意見、また建設的な意見もいただきました。ただいまの決をもちまして、今後の運行の参考にさせていただきたいと思います。議事の方はこれで終了いたします。

4 その他

(堀江議長)

続きまして、次第に戻りましてその他でございますが、これについては、事務局の方は何かありますか。

(事務局：齋藤)

事務局の方より1点、ご報告を差し上げます。市内バス路線の一部の路線で、運行ダイヤの改正と、運行区間の見直しがありましたのでご報告を差し上げます。今月18日、今週の土曜日に、小湊鐵道バスが運行しております、季美の森線、みずほ台線それぞれ、新型コロナウイルスの影響による利用者の減少のほか、法改正に伴う運転手の労働時間の見直しや、運転手の確保等の問題により、運行本数の減便及び、瑞穂地区におきましては、瑞穂地区へのバスの乗り入れが休止になるということになりました。また、当該路線につきましては、現在、千葉県バス対策地域協議会と地域間幹線系統補助の協議を行っているとなっております。今後、休止となった路線や、地域間幹線系当路線となった場合には、本市の地域公共交通計画への位置付けや計画の修正が必要となりますことから、次年度において、見直しをする予定であることをご報告差し上げます。

報告につきましては以上でございます。

(堀江議長)

今の事務局の報告の中で地域間幹線の補助金というのは具体的にどのようなものなのでしょうか。

(渡邊委員 代理：青木様)

千葉県交通計画課の青木と申します。今の質問に関しまして、事務局ではなく、その補助金を管理してます千葉県の方から回答させていただければと思います。地域間幹線系統というのは、バス路線の中で、複数市町村に跨る広域的幹線的な幹になる路線に関しまして、その路線が生活路線として必要なものという形で、千葉県のバス対策地域協議会というところがあるんですが、そちらで協議をして、承認を受けた路線に関しまして、国と県の方から赤字額の約2分の1ずつを補助するという制度になっております。他にもいろいろ要件の方はあるんですが、そちらで承認を受けたものに関しまして、補助をすることによって運行を続けるということで、地域間幹線系統補助金というのがございます。以上です。

(堀江議長)

ただいま事務局から発言がありました点につきましては、今後のこの協議会での協議事項の一つになるということで、委員の皆様方におかれましては、ご承知おきいただきたいと思ひます。

他にその他事項として委員の皆様の方から何かございますでしょうか。

(深山委員)

小湊鐵道の深山です。先ほど事務局の方から説明があつたとおりになるんですけれども、若干詳細な話としまして、季美の森線に関しまして平日、61便あつたものが45便になります。土日休日祝日に関しましては、49便あつたのが24便という形になります。大変ご迷惑かけるお話になってしまうんですけども、これを計画するにあたって、自治会様の方と何度かお話をさせていただいた中での決定となっております。ご存知のとおり、やはりコロナ禍の中で、収支改善という形で、小湊鐵道としましては、いろいろとやってきた中ではあるんですけども。それに加えて、2024年の働き方の改革という形で、現状、バスの運転手の人数が確保できない状況の中で、そういった働き方の改善があるということで、どうしてもその運行ダイヤの見直しというのが出てきてる現状でございます。ですのでご迷惑かかってしまう中ではあるんですけども、こういう形で、進めさせていただきたいと思ひます。先ほどおっしゃってございました補助金の方もですね、現在、申請しております承認いただければ、実施していきたいと思ひしておりますので、今後ともひとつよろしくお願ひいたします。

(堀江議長)

ありがとうございました。

公共交通、実際は民間事業者が主体となって運行されてますけど、その中でも大変労働環境も含めて厳しい時代になっています。他の委員の皆様、他に何かその他事項としてご報告ございますでしょうか。

(永田委員)

今の小湊さんのお話を伺った件なんですけども。みずほ台の循環バスは、休止、廃止。ということは復活もあるんですか。

(深山委員)

復活は無いです。

(堀江議長)

ありがとうございました。

それでは他に無いようでしたら、議事を進めたいと思ひます。司会の方にマイクを返したいと思ひます。

5 閉会

(事務局：加藤岡)

委員の皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただき、また長時間にわたるご

協議ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度第4回大網白里市地域公共交通活性化協議会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。